

環境温度が皮膚温・皮膚血流量に及ぼす影響について
○ 米田幸雄
(京都女大)

目的 着衣の保温性を調べるために、皮膚温の他に皮膚血流量の測定が行われている。そこで、気温の変化が皮膚温と皮膚血流量にどのような影響を及ぼすかを調べ、また両者の比較を行った。

方法 女子学生5名を被験者とし、パジャマ(綿100%)着用させ、測定点を皮膚温・皮膚血流量ともに7カ所設定し、仰臥位安静状態で、人工気候室内温度を30℃、25℃、20℃、15℃に変化させて測定した。(湿度はいずれも約60%)測定器はサーミスター温度計とレーザドップラー血流計とである。

結果 外気温が高温時には、皮膚温、皮膚血流量ともに大であるが、身体部位による相違は少なかった。低温時には、小となるが、四肢部、殊に末端部に著しかった。両者の関係は、高温時には必ずしも対応しなかったが、低温時には、対応する傾向が認められた。以上、皮膚温と皮膚血流量の変化から四肢部、殊に末端部体熱放散調節機能が大であると思われる。